

紫式部代話
根源實繁
仙果編述
豊國畫

六冊三冊

喜鶴堂壽梓

3050
1



へ13 特
3050
1-3

へ13 特
3050
1

根源實紫
初編上冊

佐野屋

笠亭仙果作
一陽齋豐國画

芝神明前
佐野屋發販

豊
四
魚

仙果作



初編下

芝三島町
喜鶴堂

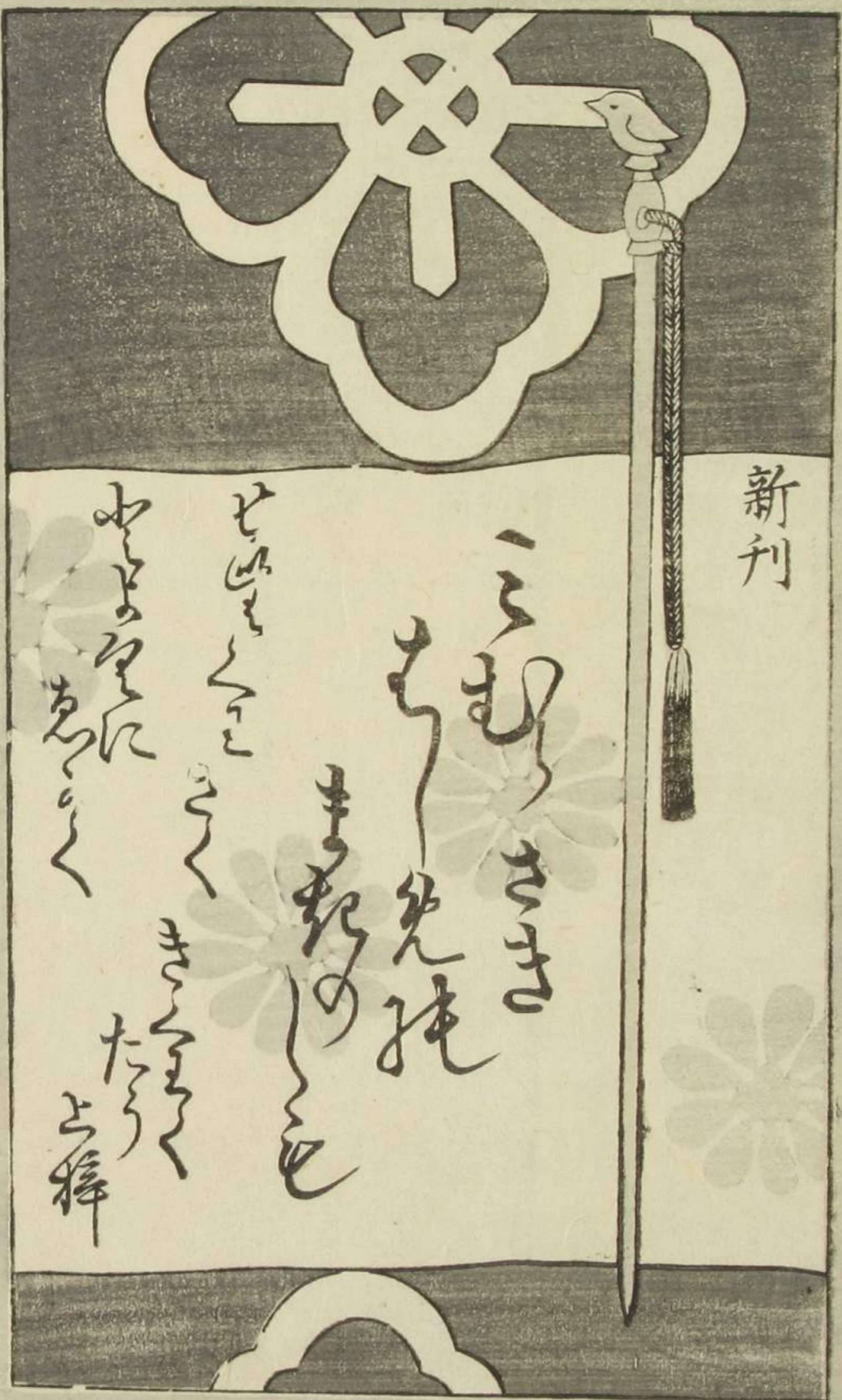
根
源
み
心

老
美

初編上



新刊



三むらさき
もみ先純
まねのし
とく
やまのし
あつとく
たう
と輝

於藤作の本故武藏野に草造紙其が縁者と

稱るべけれも哀人の愛て漆色ある城も江戸名物の

隨一と

形ぬ初も又其源乃其源氏の物語昔作式部傳記

知まわやとゆのかる幼子達をわくと聞て彼女房の

一代話例の各巻に物せよと也撰同くはつとも違ひ實録のま記

又昔賢女の行状も知まそ此と教の端ともゆんと實それ

道理

あまを既在下足利組の八編にも書如く似て非ある物あつて

人の悦び着給は虚い面白く實に興浅し加之古書藉観る力と

取れ聞取傍問えんれ紫式部の生年も没年も其

實名も未知る唯彼人の日記二冊小客跡心術自然小



微細見ぬれば大方斯くや有つんと十五五ハ推量の憶度とと
あつたまは外題ハ實の嘆とも實らま虚あはれ猶とを
興るや

深くは繪様もたまたま隨ハ穂和とてく珍しき
節のゆれども是も亦藤に有縁の龜戸乃名筆外に

まねてのあきまの先一袋二快喜鶴堂に稿と贈つる鳴呼赤木坂
紫色に深改一先郎の餘光僕等もまを及べ我と追善心小卒都渡

の詠歌

家の集りも釣出ハ小町は縁の世喜寺小拙筆と起るゆら

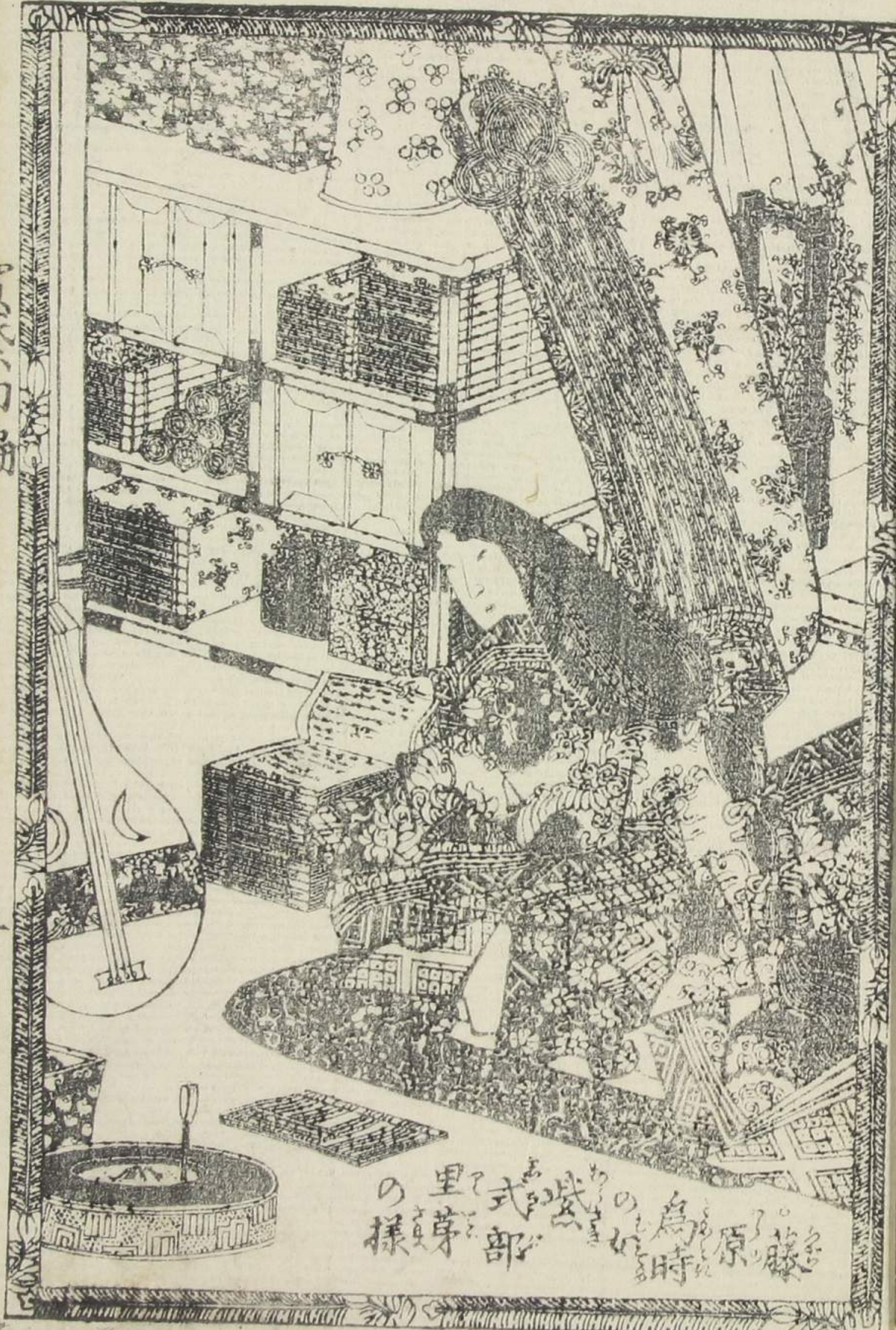
嘉永五年壬子閏春

東都浅草

笠亭仙果



烏帽子袴衣緋の袴ハ踊比外ハ画にむきても幼兒の目と癒めれば月代刺と攝政
關白片外ハ内侍命婦其趣意ハ半ゆりも大事かとも車とも衆物をかへくま



鳥原藤の式部里の模様

女童
寄生
木

一
條院
天皇の
中宮
彰子

中宮
御本
妻

家集
ひとに
いつあ
かあ
さひ
あひ
れ



女童
きんご

父為時
式部丞
なり時中宮
つふよと
その官名
つひ藤式
名号られし
ありて

此式部
再出

奉公せり
以前の名
いまのめ
新し作
設人も
あり身
さうら
むら
むら
むら
むら
むら
むら
むら
むら

會
家
系
刀
前
冊

二



攝政大臣

藤原道長公

御堂關白と申す

右衛門權佐宣孝女

賢子 後大貳三位と呼ぶ



女郎花 式部

あゝのこゝろさきさき
さきさきさきさき
さきさきさきさき

あや
その
御堂殿





刀部

一

實止

六

六

大の...
女中の...
...

...

...

...

...

...



Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introductory text, located at the top of the right page.

Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introductory text, located at the bottom of the right page.

Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introductory text, located at the top of the left page.

Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introductory text, located at the bottom of the left page.



Small vertical text on the right edge of the right page.

Small vertical text on the right edge of the right page.

Small vertical text on the left edge of the left page.



山石寺の圖

いふは...
 女名...
 ひ...
 山石寺

この山石寺の僧...
 女名...
 ひ...
 山石寺

石山寺の圖



石山寺の僧...
 女名...
 ひ...
 山石寺



寶林

三

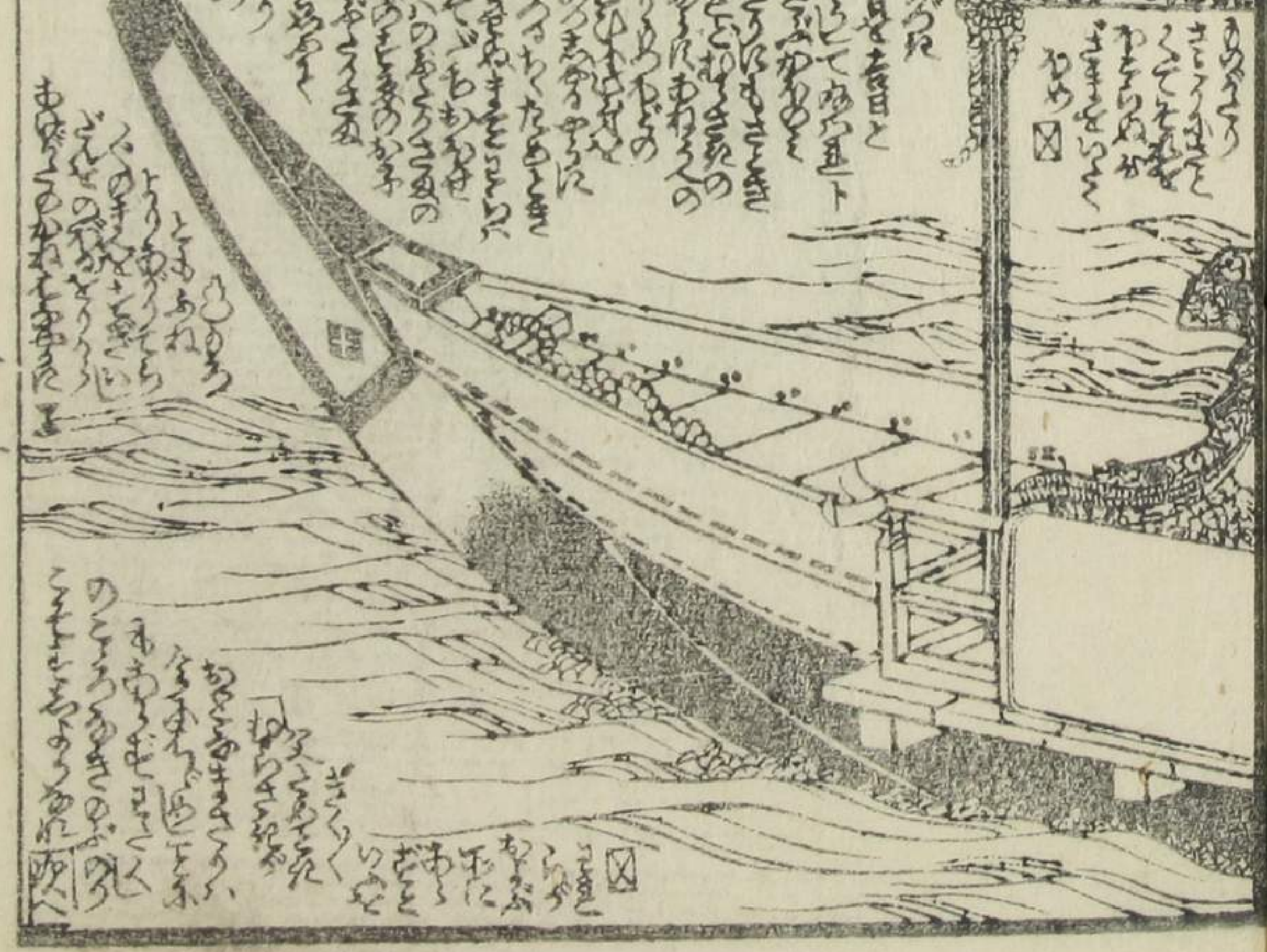
坂田公時



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a chapter introduction or a scene description. The text is written in a cursive style.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the narrative or providing commentary on the scene.



Handwritten Japanese text at the bottom of the page, possibly a concluding note or a signature.



Handwritten Japanese text at the top of the left page, including the number '25' in a box.

Handwritten Japanese text on the left side of the illustration, including the characters '帝位' and '女御'.

Handwritten Japanese text at the bottom of the left page, including the characters '△' and '○'.



Handwritten Japanese text at the top of the right page, including the characters '御座' and '御座'.

Handwritten Japanese text on the right side of the illustration, including the character '惟'.

Vertical text on the far right edge of the right page, including the number '十五'.

仙果
作



二編上

根源

豊

園

画

喜鶴堂喜梓



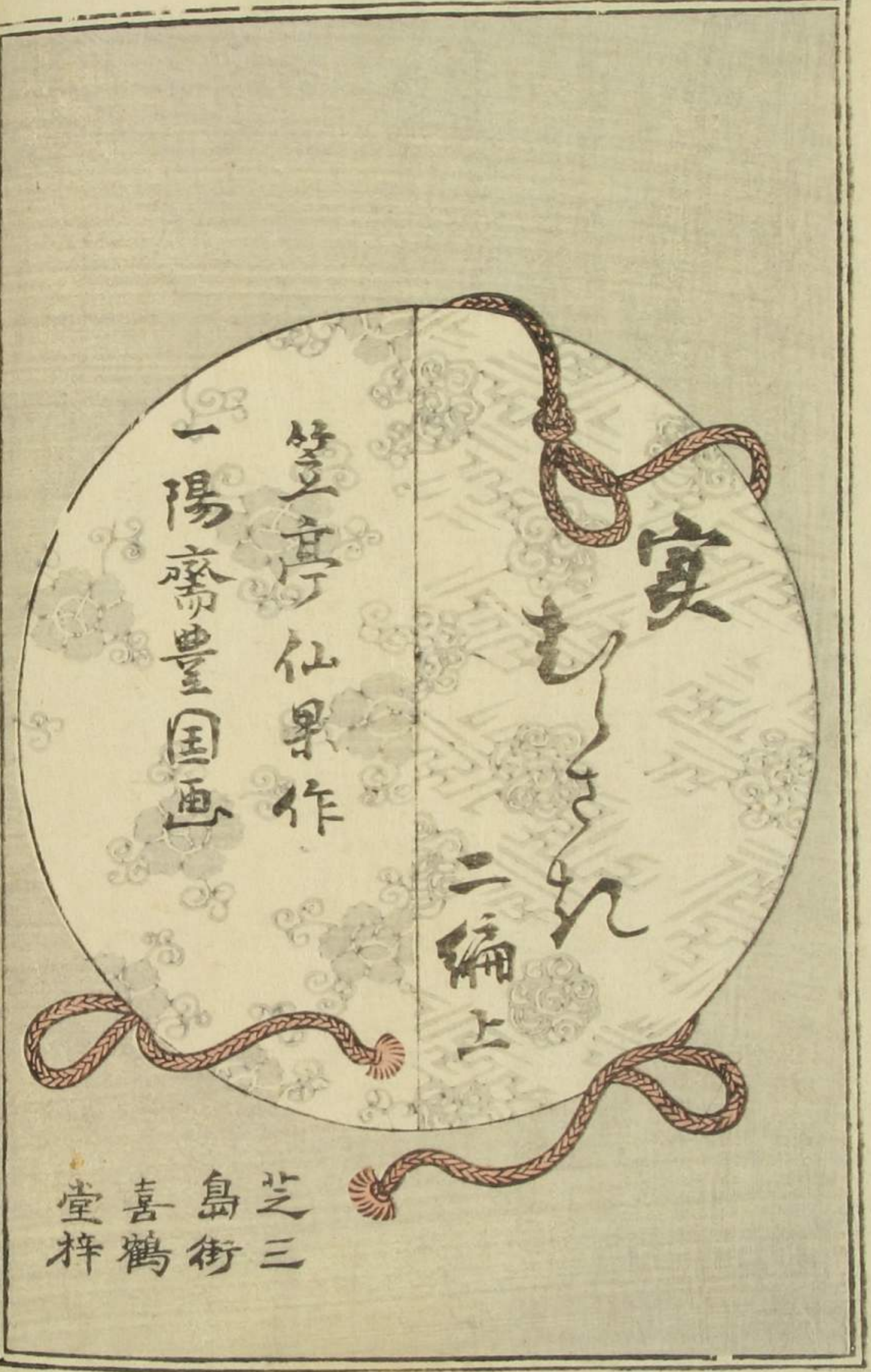
三母
志

二編下



在のまゝて實事なりとも興あはれは虚談と加ふる然ハ
 初編 此処少實紫の名ハありあらず其ハ父の語とさく程
 上より下の 半石山寺に 杵より柄の太き似れどつき趣向と餅の
 始り爲時の物 つるど團子十五夜月見ははき又三編の
 語せんとさくまでハ 末小發一宣孝先して中宮以式部
 跡方もなき座おと 奉安の願末自操曇らぬ婦の電鑑 悲し以野も更かあり
 ぬれど其人物ハ古書ハ 舊記小照してあるは實と 初春の御年玉ありあへく
 出さその人々ハ行状性質 録して御覽小備へん やと我身らく記して序と次
 雜史記録家集を人に問 先此編弘徽殿 のあは軒端 嘉永四年辛亥臘月
 聞とわりはかやうえとの推 乃ハ
 量語其上を世継の物語此二編
 せも猶尽き是ハ榮花の物語の

笠亭仙果述



芝三
 島街
 喜鶴
 堂梓

華山院天皇



新千載集

弘徽殿女御

かへ色侍りり秋
唐のあつこききき
たきりりり

あふと世の

人々

物を足

ちや唐の

おまこの

そ唐のつゆ

り記



弘徽殿

女御

低子の霊魂



右衛門の
佐宣
孝

紫式部

新
拾遺
集
離中
里のなほ
こころ小
ちれハ
山崎乃
くちの
ワケり也
いし
まなす

山崎乃



〇左中辨
 〇右中辨
 〇左下
 〇右下

〇左中辨
 〇右中辨
 〇左下
 〇右下

〇左中辨
 〇右中辨
 〇左下
 〇右下

〇左中辨
 〇右中辨
 〇左下
 〇右下

〇左中辨
 〇右中辨
 〇左下
 〇右下

〇左中辨
 〇右中辨
 〇左下
 〇右下

〇左中辨
 〇右中辨
 〇左下
 〇右下



ひのくに
あつた
しげあさ
まもあ
うちこはあ
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま

ひのくに
あつた
しげあさ
まもあ
うちこはあ
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま

あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま

あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま

あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま



あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま

あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま

あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま

あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま

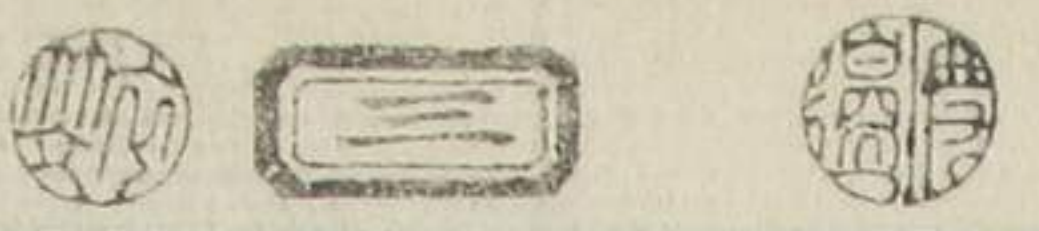
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま

あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま
あいつま



豊國畫 仙果作

此の仙果作は、豊國畫の筆で描かれたものなり。其の意匠は、
 仙果の姿を、人の形に擬して、其の情状を表現せしむるに在り。
 其の髪は、狂風を象徴する如く、乱れに亂れ、其の鬚は、
 老練の如く、長く垂れ下り、其の目には、憂鬱の影を窺はせり。
 其の衣は、豪華な装束を著し、其の帯は、複雑な文様を有し、
 其の足は、高き草履を履き、其の姿は、貴族の如く、然れども、
 其の神態は、憂鬱の如く、其の手に、杖を握り、其の歩は、
 蹣跚たるを以て、其の心は、憂鬱の如く、其の顔は、憂鬱の如く、
 其の口は、憂鬱の如く、其の鼻は、憂鬱の如く、其の目は、
 憂鬱の如く、其の眉は、憂鬱の如く、其の髪は、憂鬱の如く、
 其の鬚は、憂鬱の如く、其の目には、憂鬱の影を窺はせり。
 其の衣は、豪華な装束を著し、其の帯は、複雑な文様を有し、
 其の足は、高き草履を履き、其の姿は、貴族の如く、然れども、
 其の神態は、憂鬱の如く、其の手に、杖を握り、其の歩は、
 蹣跚たるを以て、其の心は、憂鬱の如く、其の顔は、憂鬱の如く、
 其の口は、憂鬱の如く、其の鼻は、憂鬱の如く、其の目は、
 憂鬱の如く、其の眉は、憂鬱の如く、其の髪は、憂鬱の如く、
 其の鬚は、憂鬱の如く、其の目には、憂鬱の影を窺はせり。



上の仙果作は、豊國畫の筆で描かれたものなり。其の意匠は、
 仙果の姿を、人の形に擬して、其の情状を表現せしむるに在り。
 其の髪は、狂風を象徴する如く、乱れに亂れ、其の鬚は、
 老練の如く、長く垂れ下り、其の目には、憂鬱の影を窺はせり。
 其の衣は、豪華な装束を著し、其の帯は、複雑な文様を有し、
 其の足は、高き草履を履き、其の姿は、貴族の如く、然れども、
 其の神態は、憂鬱の如く、其の手に、杖を握り、其の歩は、
 蹣跚たるを以て、其の心は、憂鬱の如く、其の顔は、憂鬱の如く、
 其の口は、憂鬱の如く、其の鼻は、憂鬱の如く、其の目は、
 憂鬱の如く、其の眉は、憂鬱の如く、其の髪は、憂鬱の如く、
 其の鬚は、憂鬱の如く、其の目には、憂鬱の影を窺はせり。
 其の衣は、豪華な装束を著し、其の帯は、複雑な文様を有し、
 其の足は、高き草履を履き、其の姿は、貴族の如く、然れども、
 其の神態は、憂鬱の如く、其の手に、杖を握り、其の歩は、
 蹣跚たるを以て、其の心は、憂鬱の如く、其の顔は、憂鬱の如く、
 其の口は、憂鬱の如く、其の鼻は、憂鬱の如く、其の目は、
 憂鬱の如く、其の眉は、憂鬱の如く、其の髪は、憂鬱の如く、
 其の鬚は、憂鬱の如く、其の目には、憂鬱の影を窺はせり。

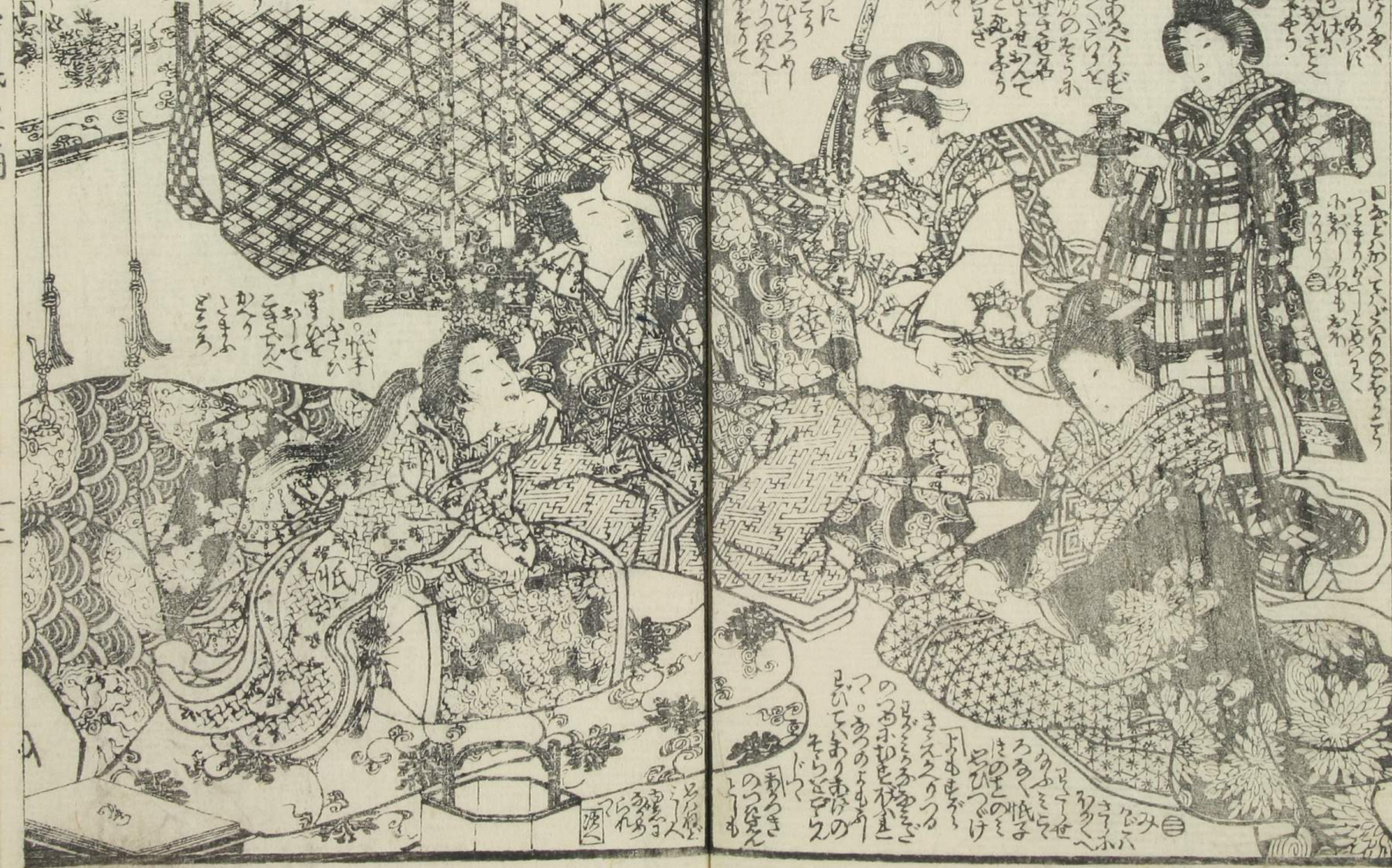


下の仙果作は、豊國畫の筆で描かれたものなり。其の意匠は、
 仙果の姿を、人の形に擬して、其の情状を表現せしむるに在り。
 其の髪は、狂風を象徴する如く、乱れに亂れ、其の鬚は、
 老練の如く、長く垂れ下り、其の目には、憂鬱の影を窺はせり。
 其の衣は、豪華な装束を著し、其の帯は、複雑な文様を有し、
 其の足は、高き草履を履き、其の姿は、貴族の如く、然れども、
 其の神態は、憂鬱の如く、其の手に、杖を握り、其の歩は、
 蹣跚たるを以て、其の心は、憂鬱の如く、其の顔は、憂鬱の如く、
 其の口は、憂鬱の如く、其の鼻は、憂鬱の如く、其の目は、
 憂鬱の如く、其の眉は、憂鬱の如く、其の髪は、憂鬱の如く、
 其の鬚は、憂鬱の如く、其の目には、憂鬱の影を窺はせり。
 其の衣は、豪華な装束を著し、其の帯は、複雑な文様を有し、
 其の足は、高き草履を履き、其の姿は、貴族の如く、然れども、
 其の神態は、憂鬱の如く、其の手に、杖を握り、其の歩は、
 蹣跚たるを以て、其の心は、憂鬱の如く、其の顔は、憂鬱の如く、
 其の口は、憂鬱の如く、其の鼻は、憂鬱の如く、其の目は、
 憂鬱の如く、其の眉は、憂鬱の如く、其の髪は、憂鬱の如く、
 其の鬚は、憂鬱の如く、其の目には、憂鬱の影を窺はせり。

いふたの世の事もおぼろしく
いふかきさうはあつたは
これにもあつたはあつたは
いふかきさうはあつたは
いふかきさうはあつたは

五月のあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたは

いふたの世の事もおぼろしく
いふかきさうはあつたは
これにもあつたはあつたは
いふかきさうはあつたは
いふかきさうはあつたは



いふたの世の事もおぼろしく
いふかきさうはあつたは
これにもあつたはあつたは
いふかきさうはあつたは
いふかきさうはあつたは

いふたの世の事もおぼろしく
いふかきさうはあつたは
これにもあつたはあつたは
いふかきさうはあつたは
いふかきさうはあつたは

慶應二寅歲孟陽發兌

笠亭仙果作
一陽齋豐國画

極楽の楽園に遊ぶ人々の姿を
見れば心も清く身も軽くなる
と云ふは古の歌にもある
ことなりけり
笠亭仙果の
一陽齋豐國画



兒雷也豪傑譚
四十三編 柳下亭種員作
四十編 一壽齋國貞画

新編金瓶梅
初編 十編迄 曲亭馬琴作
太尾 一陽齋豐國画

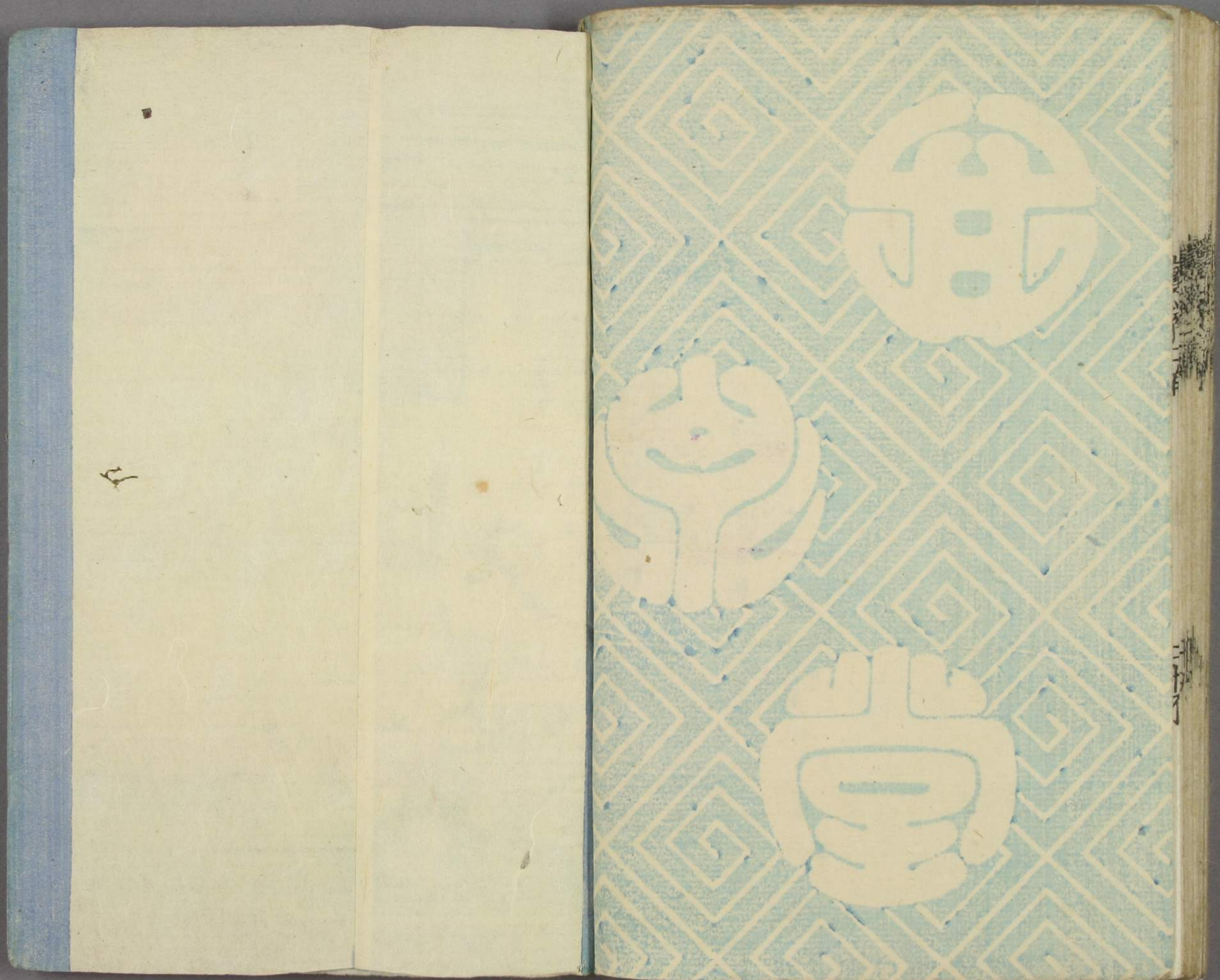
不思議塚小説櫻七編八編
種清作 國貞画
小女郎蜘蛛怨草環
初編ヨリ 大尾

揚蔭花園守
種久作 虎画
世々々々々々々々
下弟亦亦亦亦亦亦

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板

寶珠二條

二十一



みむらさき
二編
仙果編述
豊国画図

みむらさき
さのむら
梅の



雨細色